様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３４３１７
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2015～2016
課題番号：１５Ｋ１６６８９

研究課題名（和文）谷崎潤一郎の肉筆資料と検閲制度の相関関係についての研究

研究課題名（英文）A Study on correlation between Junichiro Tanizaki's handwritten materials and Censorship

研究代表者
西野　厚志（NISHINO, Atsushi）

京都精華大学・人文学部・講師

研究者番号：００６０８９３７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,200,000円

研究成果の概要（和文）：2015年、谷崎潤一郎（1886～1965）は没後50年を迎え、決定版谷崎潤一郎全集（全26巻、2015～2017）が刊行されるなど、国内外を問わず関心が高まっている。その約半世紀にもわたった執筆活動は言論統制との衝突の連続でもあった。本研究では、自筆原稿や書簡といった肉筆資料の調査に基づいて、検閲制度との関わりを明らかにし、谷崎の文学的営為の意義について考察した。

研究成果の概要（英文）：In the year 2015, which marked the fiftieth anniversary of Junichiro Tanizaki’s death, his works attract public attention at both domestic and international through the release of the complete works of him[26Volumes, 2015-2017]. His writing activities had kept on conflicting with national power that controlled the freedom of speech for more than half a century. The purpose of this study is to uncover correlation between Tanizaki’s works and Censorship, by researching Tanizaki’s handwritten materials—autograph manuscripts and letters—, and I considered the meaning of his literary activities.

研究分野：日本文学

キーワード：谷崎潤一郎　検閲　占領期　出版史　古典受容　源氏物語　細雪

１．研究開始当初の背景

これまで、申請者は、谷崎潤一郎（1886～1965）が戦前・戦中に取り組んだ「源氏物語」の現代語訳（『潤一郎訳源氏物語』全 26 巻、1939～41）の削除問題について研究してきた。谷崎は生涯で三度「源氏」訳を手がけたが、最初の訳からは、戦時下の皇国思想の圧力により、皇妃である母と元皇族の子が演じる禁断の恋を中心として無数の「不敬」な箇所が削除されることとなったのである（戦後に出された二度目の訳からは完全版として出版される）。研究を進めてきた背景には、以下の三点が挙げられる。

第一に、紅野謙介『検閲と文学 1920 年代の攻防』(2009)、近代以前からの言論統制について論じた『検閲・メディア・文学　江戸から戦後まで』(2012)、戦前の東アジア全域の検閲制度についての研究『検閲の帝国』（2014）の刊行をはじめ、戦後の GHQ 検閲関連資料を収蔵するメリーランド州立大学プランゲ文庫についての「占領期雑誌記事情報データベース」公開（2002）と『占領期雑誌資料大系』（2009～2010）刊行など、近年めざましい検閲研究の進展がある。

第二に、近代における古典文学の正典（カノン）形成に関する研究としてハルオ・シラネ編『創造される古典』(1999) などがあり、小林正明『批評集成源氏物語』第 5 巻「戦時下篇」（1999）などによって、日本文化の象徴である「源氏物語」も規制を受けていた事実が明らかにされた。

第三に、「谷崎源氏」について、芦屋市谷崎潤一郎記念館で 2003 年・2007 年と二度にわたって展覧会が開催され、戦前版の谷崎自筆原稿、戦後の完全版制作時に使用された谷崎・山田らの戦前版手沢本と書き入れタイプ原稿が展示されるなど、関連資料の公開がある。その後、國學院大学へ移管された　戦後版関連資料については同大学の調査グループによって分析・報告がなされている（秋澤亙「谷崎源 氏と玉上琢彌―國學院大學蔵『潤一郎新訳源氏物語』自筆草稿から」『國學院雑誌』2008・10／大津直子「二つの谷崎源氏―國學院大學蔵 『潤一郎新訳 源氏物語』草稿より見る一考察」『文学・語学』2010・3 など）。

２．研究の目的

谷崎潤一郎は 1910 年に文壇へ登場して以来、死の直前まで執筆を続けたが、2015 年度はちょうど没後 50 年にあたる。その約半世紀にもわたる文学活動は、戯曲「恐怖時代」などの度重なる上演禁止、代表作「細雪」に対する軍部の介入による連載中止、戦後第一作「A夫人の手紙」の占領軍による掲載禁止など、言論統制との衝突・折衝の連続でもあった。著作権失効を契機とする新全集刊行の開始と国際会議開催など国内外での関心が高まるなか、自筆原稿や書簡といった肉筆資料の新発見・公表が相次いでいる。そういった新出資料を活用して、作品発表や出版事情の内実を明らかにすることで、谷崎の文学的営為の意義を明らかにするとともに、近代の言論統制と表現の自由との関係について考察する。

これまで、申請者の「谷崎源氏」の削除問題に関する研究は、『朝日新聞』（2006・5・31、6・12、2008・8・14）『日本経済新聞』（2008・5・27）や NHK（2008・11・5、16）で紹介され、その後も当該問題は単なる過去の一事例にとどまらない現代性を有するという認識のもと、考察を深化させてきた。しかし、問題を特定の時代状況や制度に限定する ことなく現代に接続して考察するには「谷崎源氏」の検討だけでは不十分であった。そこで、問題解決と発展のため、谷崎文学全体と戦前・戦後の検閲制度との関わりへと考察対象を広げる本研究課題を新たに着想した。谷崎による自主規制の内実と戦前の内務省による検閲制度との関わり、そして戦後 GHQ によって実施された検閲との関わりを明らかにし、戦前・戦後の検閲制度についての研究を架橋することを目的とする。加えて、谷崎の肉筆資料は文化財の観点からも貴重であり、その保存と公開は急務であるが、本研究課題の遂行によってさらなる新出資料発見の促進も期待される。

３．研究の方法

谷崎潤一郎の文学活動と検閲制度や近代の権力機構との相関関係を明らかにするために、おもに三種類の肉筆資料を活用・分析することを計画した。

（１）編集者宛て書簡 49 通

これまで進めてきた戦時下版「谷崎源氏」についての研究は、校正刷などの出版資料が焼失しているために停滞を余儀なくされていたが、研究を前進させる新資料を入手した。当該資料は谷崎書簡 49 通、うち 45 通は中央公論社で戦前版「谷崎源氏」を担当した雨宮庸蔵の後任・福山秀賢と木内高音に宛てたもので校正時の指示や相談が記されている。これと「谷崎全集」所収書簡、中公社長・嶋中雄作宛谷崎書簡 105 通（千葉俊二編『谷崎先生の書簡』2008)、山田孝雄宛谷崎書簡 13 通・山田宛雨宮書簡 2 通（ともに山田文庫蔵)、雨宮宛谷崎書簡 58 通（芦屋市谷崎潤一郎記念館蔵)、雨宮宛山田書簡 7 通（細江光「雨宮庸蔵氏所蔵山田孝雄書簡紹介」『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』21 号）を時系列に並べれば、計 230 通以上にも及ぶ資料体が出来上がる。また、当時の谷崎にまつわる出版事情を垣間見ることが出来る資料として、創元社編集者・小林茂に宛てた書簡 4 通もある。これらの翻刻と注釈作業を進める。

（２）「A夫人の手紙」原資料（谷崎夫人宛・森村春子書簡）

谷崎潤一郎の戦後第一作「A夫人の手紙」は、当初『中央公論』（1946・8）に掲載予定であったが GHQ 指揮下の CCD（Civil

Censorship Detachment＝民間検閲支隊）の検閲で軍国主義的（militaristic）だとして全文掲載禁止（Whole Article SUPPRESSED）、のちに『中央公論』文藝特集第二号（1950・1）に改めて掲載されるという複雑な経緯をたどって公表された。同作については、細江光「モデル問題ノート」（『谷崎潤一郎 深層のレトリック』2004）によって谷崎夫人に宛てられた友人の書簡がもとになっていることが知られていたものの、内容はこれまで未確認であった。このたび申請者は全集の編集過程で当該資料の所在を確認した。現存する原資料は以下の四点である（すべて中央公論新社蔵）。①昭和十九年二月十日付け谷崎松子宛て森村春子書簡（便箋裏表二枚、封筒なし）、②同年四月五日付け同書簡（便箋二枚、封筒あり）、③同年七月十日付け同書簡（便箋六枚、別紙五枚＝図解、封筒あり）、④『中央公論』掲載時の図版（反故）五枚。当該資料の翻刻・注釈作業を進め、校正刷や英文検閲調書（ともにプランゲ文庫収蔵）を翻訳、初出誌や初刊本の本文と比較する。

（３）「細雪」自筆原稿

谷崎潤一郎の代表作「細雪」は『中央公論』連載（1943・1、3）が軍部の介入で中断、上巻のみ私家版（1944）を配布するも以下続刊は禁止、戦後に上・中巻（1946、47）刊行、後続部分は『婦人公論』（1947・3～48・10）連載後に下巻（1948）としてまとめられた。すなわち、同作は戦前の内務省検閲と戦後のGHQ 検閲双方への対応を迫られた稀有な作品なのである。その自筆原稿（中央公論新社蔵）は二十字二十行四百字詰めの原稿用紙で総数千五百九十九枚に及び、修正個所は墨で塗り潰し、あるいは上から別紙を貼り付けて書き直され、余白にも細かな字で書き込みが見られるなど推敲の過程を留めている。申請者は、新全集編集において「細雪」収録巻を担当したためにデジタル化された自筆原稿を特別に入手しており、初出誌・私家版・初刊本との本文校訂作業にすでに着手している。当該年度には校訂を終えて、内容の分析と注釈作業を進める。

４．研究成果

谷崎の肉筆資料として、以下の三種類を活用・分析して成果を出した。

（１）「谷崎源氏」の編集者宛て谷崎書簡 49 通の調査に関しては、全ての書簡の翻刻と注釈作業を終え、関係した編集者の履歴についても詳細に調査した。結果、戦前の内務省による検閲制度（事前検閲＝内閲）との関わりを明らかにした。これらの成果は「戦時下版「谷崎源氏」成立の背景 ―編集者宛て新出書簡にふれながら―」（「谷崎源氏」シンポジウム）として学会で発表した。今後、翻刻に解題を付して紀要などに発表する予定である。

（２）「Ａ夫人の手紙」執筆時に谷崎が参考にした原資料（谷崎夫人宛ての友人の手紙）を翻刻して詳細な注釈を付け、原資料の発信者の遺族への取材を行った。結果、戦後 GHQ によって実施された検閲との関わりについて明らかにした。これらの成果は「消滅する書簡（エクリチュール）―新出資料（谷崎松子宛森村春子書簡）から見る谷崎潤一郎「Ａ夫人の手紙」―」（日本近代文学会）、「谷崎潤一郎と検閲 ―「Ａ夫人の手紙」・事前検閲・用紙統制―」（２０世紀メディア研究所研究会）として学会で発表した。今後、資料編と論考編にわけて学会誌・紀要などに発表する予定である。

（３）「細雪」自筆原稿や著者書入れ本など草稿類について、加筆・修正された箇所を抽出、初出誌や初刊本の本文との異同を確認した。結果、戦前・戦後の検閲制度についての研究を架橋した。この成果は『谷崎潤一郎全集』第１９・２０巻の解題としてまとめ、刊行した。また、戦前戦後の検閲制度の変遷と小説表現の変化について、「言論の戦禍―谷崎潤一郎と戦争」（『別冊太陽』）、「韻文と散文のあいだ―「細雪」下巻三十七章を読む―」（『日本文学』）、「生成論　自筆原稿・創作ノート」（『谷崎潤一郎読本』）、「《座談会》複数の「谷崎」に向かって ―新発見資料「創作ノート」を手がかりに」（『谷崎潤一郎読本』）として発表した。

なお、これらの研究成果は、『京都新聞』紙上の「探求人」のコーナーで「谷崎を新たな視点で研究　検閲切り口本質に迫る」として紹介された（13 面、2016 年 12 月 24 日）。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

① 西野厚志、「生成論　自筆原稿・創作ノート」、『谷崎潤一郎読本』、翰林書房、pp.－、2016
② 西野厚志、「放浪するプリンスたちと毀損された物語 ―〈話の筋〉論争から「谷崎源氏」、そして村上春樹「海辺のカフカ」へ―」、『アジア遊学』、巻、pp.132－142、2016
③ 西野厚志、「韻文と散文のあいだ―「細雪」下巻三十七章を読む―」、『日本文学』、日本文学協会、65 巻 5 号 pp.90‐94、2016
④ 西野厚志、「言論の戦禍　谷崎潤一郎と戦争」、『別冊太陽』、平凡社、236 号、pp.120‐122、2016

〔学会発表〕（計４件）

① 西野厚志、「谷崎潤一郎と検閲 ―「Ａ夫人の手紙」・事前検閲・用紙統制―」、２０世紀メディア研究所３月研究会、早稲田大学、2016 年 3 月 26 日
② 西野厚志、「戦時下版「谷崎源氏」成立の背景 ―編集者宛て新出書簡にふれながら―」、谷崎源氏研究会シンポジウム

「谷崎源氏を考える」、國學院大学、2016年3月5日

③ 西野厚志、「村上春樹「海辺のカフカ」と〈物語〉の系譜―芥川龍之介・谷崎潤一郎の〈話 の筋〉を巡る論争を補助線として―」、谷崎潤一郎没後五〇年上海国際シンポジウム、上海、同済大学、2015年11月20日～22日

④ 西野厚志、「消滅する書簡（エクリチュール）―新出資料（谷崎松子宛森村春子書簡）から見る谷崎潤一郎「A夫人の手紙」―」、日本近代文学会、東京大学駒場キャンパス、2015年5月31日

〔図書〕（計２件）

① 谷崎潤一郎、西野厚志（解題）、『谷崎潤一郎全集』、中央公論新社、第19巻、総ページ数621、2015

② 谷崎潤一郎、西野厚志（解題）、『谷崎潤一郎全集』、中央公論新社、第20巻、総ページ数639、2015

〔その他〕

① 「探求人　谷崎を新たな視点で研究　検閲切り口本質に迫る」、『京都新聞』、13面、2016年12月24日

② 千葉俊二、明里千章、細江光、西野厚志、日高佳紀、五味渕典嗣、「《座談会》複数の「谷崎」に向かって ―新発見資料「創作ノート」を手がかりに」、『谷崎潤一郎読本』、翰林書房、pp.、2016

③ 西野厚志、「書評　日高佳紀著『谷崎潤一郎のディスクール　近代読者への接近』」、『昭和文学研究』、昭和文学研究会、73巻、pp.212－214、2016

６．研究組織

(1)研究代表者

西野厚志（NISHINO ATSUSHI）
京都精華大学・人文学部・講師
研究者番号：00608937